序　　論

- 計画策定の目的
- 計画の構成と目標年次
- まちの現状と特性

計画策定の目的

これまでのまちづくりの指針でありました「第1次岩出市長期総合計画（第4次岩出町長期総合計画）」の計画期間が平成22年度（2010年度）をもって完了しました。

現在の日本においては、超少子高齢・人口減少社会の到来、世界規模での経済不況、情報化社会の著しい進展の状況にあり、また、地方においては、三位一体改革をはじめとした地方分権時代から、地域の自己責任、自己決定ができる地域が主権を持った時代を迎えようとしています。

このような状況の中、「第1次岩出市長期総合計画（第4次岩出町長期総合計画）」を引き継ぐ、本市のさらなる飛躍のための新たなまちづくりの指針として「第2次岩出市長期総合計画」を策定し、市民とともに、住んでよかったと思えるまちづくりに取り組みます。

計画の構成と目標年次

計画の構成

長期総合計画は、岩出市のまちづくりにおける最上位の計画であり、「基本構想」と「基本計画」から構成されます。
また、「基本計画」に計上された施策の実施については、「実施計画」を策定し、事業の運用管理を行います。

基本構想　基本構想は、本市のまちづくりの将来像を、市民や民間企業、関係団体、行政がともに目標とし、実現に向け取り組んでいくための基本的な指針と施策の大綱を示します。

基本計画　基本計画は、基本構想を実現するための各分野にわたる基本的な方向と施策を体系的に示します。

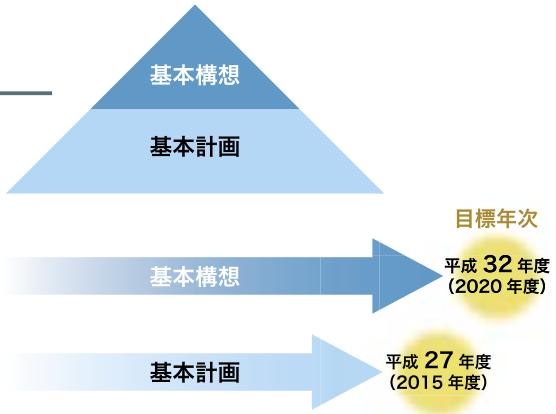
目標年次

基本構想

基本構想の目標年次は、おおむね平成32年度（2020年度）とします。

基本計画

基本計画の目標年次は、おおむね平成27年度（2015年度）とします。



まちの現状と特性

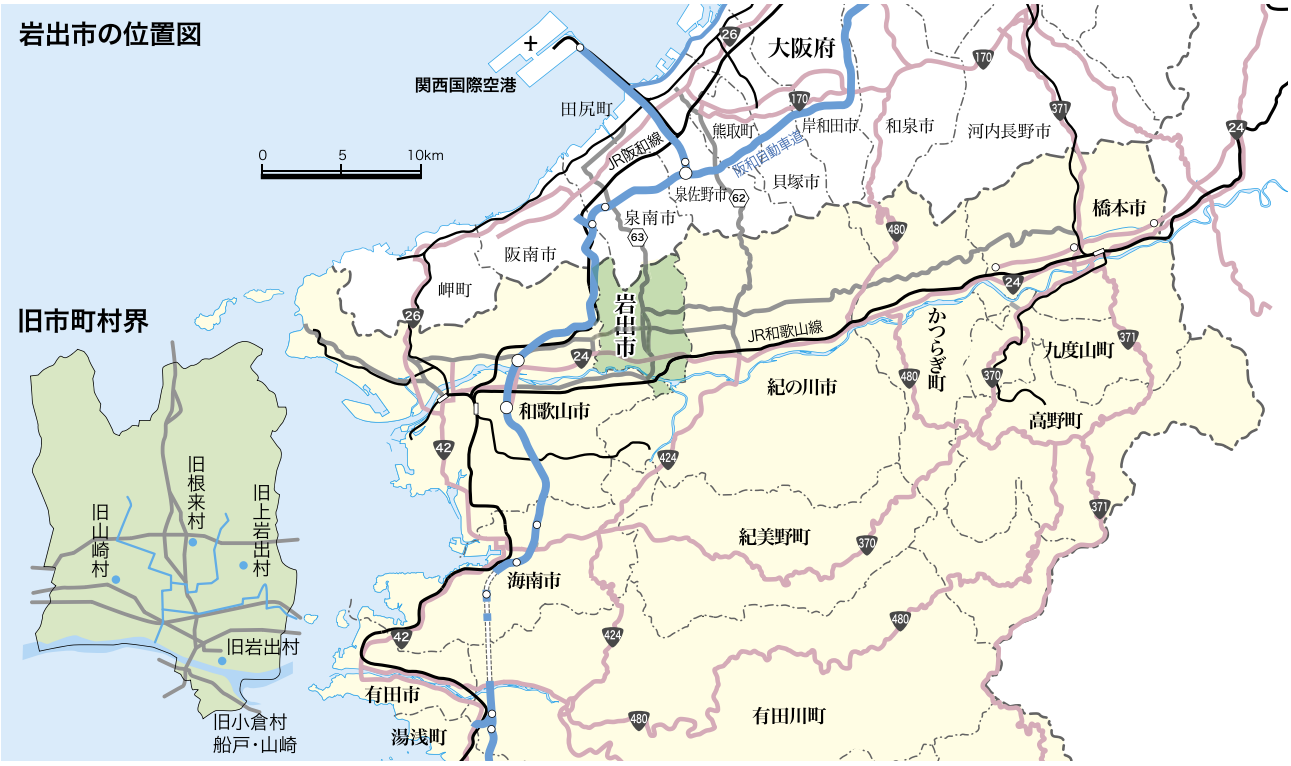
まちの現状

本市は、和歌山市の中心部から東に約15km、鉄道で約20分の距離にあり、大阪都心部からは約50km、関西国際空港からは約30kmと和歌山県北部の交通の要衝に位置します。市域は、東西に約5.7km、南北に約8.8km、面積は38.50km²であり、明治22年（1889年）の町村制施行により、岩出村、山崎村、根来村、上岩出村が誕生し、明治41年（1908年）には、岩出村が町制を施行し、岩出町となりました。昭和31年（1956年）の昭和の大合併により、岩出町、山崎村、根来村、上岩出村及び小倉村の一部であった船戸、山崎が合併し、新制岩出町となりました。さらに、平成18年（2006年）4月、平成の大合併が進むなか、住民の待望であった単独での市制を施行し、岩出市が誕生しました。

交通の面では、24時間運用可能な世界標準空港である関西国際空港に近接し、大阪方面には市の中心部を南北に府県道泉佐野岩出線が走り、東西には和歌山市方面に向け国道24号、東南部にはJR和歌山線が走っています。また、平成27年（2015年）には、京奈和自動車道紀北西道路のフルインターチェンジの開通が予定され、広域交通体系が充実しつつあります。

また、歴史の面では、古くは縄文、弥生時代からの遺跡や船戸山古墳、西国分遺跡などもあり、中世以降は、新義真言宗総本山根来寺が隆盛を極めました。江戸時代には、紀州徳川家の藩領となり着実な繁栄を築いてきました。

地勢をみると市の北部には緑豊かな和泉山脈が東西に連なり、南部には大台ケ原を水源とする清流紀の川が東西に流れています。気候は瀬戸内式気候に類似し、温暖で年間降水量も少なく比較的穏やかな気候に恵まれ、平野部は緑豊かな自然や田園風景が広がるまちでもあります。



まちの特性

近年のまちの特性として言えることは、和歌山県内のほとんどの市町村で人口が減少し続けている中、一時期ほどの勢いはないものの、年々人口が増加し続けていることが挙げられます。その要因の一つとしては、国道24号を中心にロードサイドショップ※の進出が盛んで、スーパーや飲食店など日常生活に欠かすことのできない商業・サービス業が充実していることが考えられます。交通の利便性の高さと商業施設などの充実が相まって、日常生活のしやすさから和歌山市や紀の川市、大阪泉南地域などの近隣の市町からの人口流入が続いています。このような社会増加に加え、和歌山県内で最も若いまちである本市では、人口の自然増加も続いています。しかし、人口減少時代に突入した現在、本市においても年少人口(0歳～14歳) は、緩やかではあるものの減少傾向にあります。

もうひとつの特性としては、広域交通体系が充実し、和歌山県と大阪府の交通の要衝となる本市は、大阪府側から和歌山県に至る玄関口として、また、関西国際空港の臨空都市圏としてのさらなる発展性も見込まれます。都市的形態としては、これまでは和歌山市や大阪都市圏の郊外都市として発展してきました。近年では、国道24号沿道のロードサイドショップなどの集積地に、多くの買い物客が訪れ、近隣地域の中心地としてにぎわいを集めています。

バブル景気時代のような大規模開発は落ち着いてきたものの、小規模な宅地開発は、現在も市内各地域で進められています。市の北部と南部に山並みが連なる本市では、平野部に田畑と宅地が乱立し、計画的な市街地の形成が困難な状況となっています。

また、人口の大半が転入者からなる本市では、全国的に見ても高齢化率が低く、生産年齢人口 (15歳～64歳) の割合が高い状況となっています。和歌山市、大阪方面への通勤・通学者も多く、市内では商業・サービス業の充実に伴い産業構造も変化してきました。市民のライフスタイルが多様化するとともに、コミュニティの希薄化や自助・共助意識の減退も見受けられ、ここ近年の市民の意識の変化が顕著に現れてきています。

時代の潮流が非常に早く、さまざまな情報があふれる現在、人々が求めるものは多種多様化を極めています。先行きの見えない経済など不安材料は数多くあるものの、市民の生活の場として、ゆとりとくつろぎ、安全と安心の確立に向け、市民、民間企業、関係団体、行政がともに連携し、新しい岩出のまちづくりに取り組んでいかなければなりません。

※ロードサイドショップ
幹線道路等の通行量の多い道路の沿線において、自動車でのアクセスが主たる集客方法である店舗のこと。